

みんなの広場

Tokorozawa ものしり ウォーキング

林2丁目・小野家住宅

市内には、国の重要文化財に指定されているものが3つあります。その一つに林地区の小野家住宅があります。ほかの2つ（黄林閣と旧台徳院霊廟）が他所から移築したものであるのに対し、もともと市域にあったという点で所沢の貴重な文化的遺産といえるでしょう。

小野家住宅は、江戸時代の開拓農家の数少ない現存例として昭和44年に埼玉県緊急民家調査で見いだされ、修復されたのち同53年に国の指定を受けました。

江戸時代の市域には44の村があり、その多くは新田開発によってできたものです。新田といっても田んぼのことではなく、武蔵野地方では畑の場合も用いました。現在の市域における江戸時代の開発のピークというのは、大きく3つに分けられます。一つは17世紀半ばの江戸時代前期に幕府や川越藩が進めた開発、次が17世紀末の川越藩による三富開発、最後は18世紀前半の幕府による武蔵野新田開発です。

林村は江戸時代前期に開発された村で、同時期の村としては、ほかに南永井村・亀ヶ谷村・北野新田などがあります。小野家住宅の建築年代は記録がないため明確ではありませんが、調査の結果、入植時に建てられその後修復が加えられていったものと考えられています。

小野家住宅は、間口6間・奥行き3間の茅葺き民家で、内部は入って左が土間、右が座敷という典型的な武蔵野の農家の造りです。座敷は8畳の畳敷と4畳および13畳の板敷からなる広間3間取り形式で、屋根は小規模ながら入母屋造りです。明治18年に上山村で130軒の民家を調査したデータを見ると、間口6間から7間の家は41軒みられます。このデータは江戸時代末期の農家の実態といえるので、小野家は江戸時代の一般的な農家の規模だといえます。

小野家は、その母屋だけが注目されていますが、本来はそれに付属する庭や屋敷林も農家を成り立たせている重要な要素です。

なお、小野家住宅の公開日は毎週日曜日／午前9時～午後4時です。



小野家住宅



住宅内部



▲あいにくの天気の中に行われた所沢新茶まつり。茶摘み初体験の方も楽しんで参加していました。4月22日(月)／航空公園駅前茶園



▲ボランティアの方たちが、かっこいい飛行機の作り方を丁寧に教えてくれる「飛行機工作教室」。4月13日(土)／所沢航空発祥記念館



▲「すごい」という歓声と拍手の嵐。今年も大勢の人が集まり、楽しんでいただいた市民文化フェア。4月6日(土)～7日(日)／所沢航空記念公園

街かどズームイン ZOOM IN

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶今年自然を題材にしたテーマを設定していきます▶次回のテーマは「森」▶森の中で森林浴やバードウォッチングしたことありますか▶これからは虫も活動を始めるので、観察してみたいかですか▶森についての思い出や、体験談をお寄せください▶締め切りは5月16日(休)必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

成長への苦難

東所沢・勅使河原 亜矢

5歳の娘は、今ではよく食べる成長しているのだから安心しているが以前はそうではなかった。母乳で育てたせい、離乳食を与えても食べてくれなかった。いろいろと食べて手作りの料理、ときにはベビーフードを与えてみたのだが両方ともダメだった。果汁をあげても口から「へっ」と吐いてしまふ。そのせいか、断乳も時間がかかってしまふ。その間、「この子は、一生母乳で生きていくのか」と心配された。幼稚園に入ってから、嫌いなものも食べられるようになった。よく飲み、よく食べるので、近ごろは抱っこするのでも大変だが娘の成長を喜んでいる。

いけない言葉

東狭山ヶ丘・加藤 富美子

3年間パート勤めをしました。その3年間で私は、顔も体も、まるまるとしてしまいました。確かに年を取ったため、新陳代謝が悪くなった原因でしたが、なんと言ってもいけなかったのは自分への「褒美」に甘い物を食べていたせいでした。体調が悪くて、いけなさがあっても我慢して自分のなりに仕事を頑張ってきました。そんな自分に、「ふん頑張ったね」と言ってくるのは自分だけでしたから、つい「褒美」と言ってしまう。甘い物ではなく、何か違った物を考えなくてはと思っています。

船上の思い出

南永井・井上 みどり

楽しかったディナークルーズに参加したときの思い出です。船はゆっくりと動跡を描きながら進み、海はきらきらと光っています。食事はもちろんフランス料理のフルコースです。セッティングされたテーブルには、いろいろな料理が運ばれてきて、目まぐるしくかわります。自分もおもたせられて、たいていのおなかも満たされています。赤ワインや白ワイン、洋風料理ならではの楽しさがあり、食後のデザートもその一つです。甘い香りが口の中いっぱいに広がって満足感に満ちます。テラスに出て、もう一つの夜の景色が心地よかったです。遠くには波が心地よかったです。遠くには波が心地よかったです。遠くには波が心地よかったです。

幸せ気分の代償

並木・横須賀 みどり

心には、年齢と健康を考慮して食事には気を付けている私ですが、年々「お肉の消費の折には」飲み食い「に」励んでいます。義理の作ってくださる料理を、「おいしい、おいしい」と食べ、母に「いいよ、いいよ」と言います。父は、私のために仕掛けた網を引きに行き、新鮮な海の幸を料理してくれました。母は、「おまえが好きだから」と取れたての野菜をおいしく調理してくれます。義理の料理もお世辞じやなく本当においしくて、幸せ気分の数日を過ごして、帰宅して体重計の数値を「わっ」と見つけます。それから、子どもはジョギング、私はウォーキングの日々を過ごしています。

晩酌の

西所沢・相良 武雄

私は、お父さんまで、飲み食い「の」程度なら、意識して生きてはこなかった。好きなときに好きな物を食べ、飲んできたのである。そして、ついにそのツケが回ってきた。

好き勝手に、楽しみながら執筆

なかなか書き上げられるものではありません。しっかりとした調査の上に、楽しんで執筆したことが受賞につながったのでしよう。



贈呈式会場にて

この賞に応募するきっかけとなったのは、県の広報紙の募集記事を見たからです。「初めてなので気楽に応募したら準賞をいただけました」と照れくさそうな川北さんですが、「教員時代には使えなかった常用漢字以外の文字も使っています」と話してくれた時の横顔には、作家の顔が見え隠れしていました。

この受賞作品は、6月に刊行予定の「文芸埼玉」に掲載されるそうです。また、昔の教え子が、すばらしいことだからと本にしてくださるようです。

◎川北さんは、本紙の「誰でもエッセイ」にも投稿をいただいている方です。

県内における文芸活動の発展を目的に行われている埼玉文芸賞。第33回を迎えた今年、伝記・エッセイ・評論の部で大賞無しの準賞に選ばれた川北 肇さんを紹介します。

川北さんは山形県生まれ。父親が新聞記者をしていたため転勤が多く、山形県でのことはほとんど覚えていないそうです。「本当に転勤が多くて困りました」と、当時のことを話してくれました。

大学卒業後は、東京都内の中学校で国語の教師を定年まで勤め上げました。定年後は、地域でボランティア活動をしたり、創作活動をしたりと忙しい日々を過ごしています。

今回、準賞に輝いた作品は、エッセイ集「平家物語の人々」です。この作品は、平家物語に登場する人物11人にスポットライトを当て、その人の人物記や関係する文献を読み漁り、調査を重ねながら執筆しました。

「その時代に自分が生きているような気持ちで書きました。また、好き勝手に書いているので楽しみながら書けました」と川北さん。とは言うものの、時代背景をはじめとした物語の周辺を理解していなければ、



川北 肇さん (下安松在住)

はっぴとこ 野老っ子

ここ最近、体重が増し、服のサイズが合わなくなっている。飲んだ翌日の不快感も、なんとなく大きくなっている。指先に妙なひびけが現れることもありません。

自然に回復していた学生時代とは、違うのだと痛感する。年齢を重ねると体の細胞も年々減っていく。無自覚に減っていた。それでも、若手の運動を始める気にもならず、若手ならではの魅力は拒否しきれない。しょうがない、やけ酒だ!

腹八分目

宮本町・竹内 和枝

私は、若いころ「インポート」ばかり、常に飽満状態でない自分分をコントロールできなかった。親に当り散らされた「症状」は、60歳を過ぎてから、人生の波風に耐えていくためには食べたという欲望を我慢することが必要だと思いついた。

私には、友人たち一杯やるのも楽しみの一つです。酒のさかなは回でも頂きますが、晩酌の料理はなんと言っても家内が作る料理が一番です。なにより、主婦業50年のキャリアがありますから。

味わい深いまち・京都

北有楽町・仁科 雄一

先日、京都をぶらりと歩いた。三十三間堂や祇園、新撰組の壬生寺などを中心に歩いてきたのだが、改めて訪れるとこれがかんがえがたい。以前の旅行で来た末立ち寄り、思いがけず惚れてしまった南禅寺、臨松院の湯豆腐も味わい、すっきりと満腹で清水寺へ…。参道の坂道で七味屋に入り、実家への土産を手。贈物の土産は「京都といえば…」の生八丁。ここで自分用にも買いたく七味屋、山椒が効いていて一味違う。向いておらず、すずりに残りも少なくなってきた。今度は、通販販売で購入しようかと目下思案中である。

晩酌

久米・井原 喜一郎

人間が食を断れたら生きているはずはない。戦争時代には見られた兵糧攻めも、敵を降伏させる有効手段だったのだ。テレビでは、毎日よく料理番組やあちこの温泉を紹介しな

今回のテーマは「森」です

「うさぎ」の広場

■テレビ放送
5月24日(金)午後5時30分
40分(午後10時15分～25分放映)

■インターネット
シニアケーブルネット
http://www.usagi.net

■テレビ情報館
5月16日(木)午後1時55分～2時(午後9時55分～10時放映)

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります ▼座車(田形)▼回転いす▼冷蔵庫▼カセット小型扇風機▼フロート手芸用品一式▼A型ペーパー▼チャイルドシート兼用ペーパー▼双子用縦型ペーパー▼A型▼ゴルフセット(男性用)▼マッシュマセット▼パネルシアター▼ワイヤポート(折りたたみ式)

●求めます ▼シューズボックス▼電動マッサージ機▼アクリルピアノ▼ノートパソコン▼スクーター▼原付バイク

受付方法 5月6日(例)から電話による先着順で紹介します。ただし、利用者は所沢市民に限ります。

休館日 月曜日、祝休日
申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館 ☎44-0000(00)

誰でもエッセイ

テーマ「飲み食い」